

カンボジア一貫校式典参加視察報告書

2016年10月18日

一般社団法人公益資本主義推進協議会
愛知支部途上国支援委員会並びに参加者有志

奥	村	雄	介
宇	田	幸	生
大	塚	俊	樹
高	橋	亜	貴人
増	田	貴	哉
溝	口	幹	浩
溝	口	稔	英
渡	邊	千	晃



本レポート内の文章・画像等の無断転載及び複製等の行為はご遠慮ください。

©一般社団法人公益資本主義推進協議会 愛知支部

第1 はじめに

去る2016年9月28日、カンボジアで開校する初めての日本式教育を取り入れた一貫校の開校式典が執り行われ、P I C C 愛知支部途上国支援委員会他有志も、同式典に参加いたしました。

繰り返しとなりますが、途上国支援委員会の活動目的は、途上国支援を通じて、P I C C が掲げる「三方よし」「和をもって尊しとなす」「足るを知る」「浮利を追わず」といった日本古来の「あり方」を世界共通の価値観として広めることで、米国的金融資本主義や国家資本主義の限界を超えた「新たな公益資本主義」を地球規模で実現し、地球益に貢献することを最終到達点としています。このような地球規模での価値観共有化を目指す方法として、まずは今後100年の間に人口増加が見込まれ、同じアジアの仲間として日本との価値観共有も期待しうるアジア諸国の方々に対し、ソフト面での教育支援を通じて「あり方」を伝えていくことが考えられます。人口増加著しいアジア諸国の方々との間で価値観を共有することは、すなわち、地球人口の過半数が同じ価値観を共有化することに他ならず、最も効果的であると考えられる為です。そしてこの度、まさにその嚆矢として、カンボジアに日本語教育を通じて公益資本主義の考え方を世界に発信するための一貫校「C I E S F L e a d e r s A c a d e m y (C L A)」が開校することになりました。今後世界100カ国での開校をめざす一貫校構想。その歴史の一頁に立ち会うことが出来たことは、類いまれなる幸運といっても良いかと思われまます。

本報告書では、一貫校の開校式典の様と、2回目となるカンボジア視察の概要についてご紹介させて頂ければと考えております。

本一貫校視察の企画実施にあたっては、第1回の視察に引き続き、改めて奥村雄介東海ブロック長兼副支部長のお力添えをいただきました。ここに改めて奥村雄介東海ブロック長兼副支部長に深く感謝の意を表したいと存じます。

2016年10月18日

途上国支援委員会 委員長 宇田 幸 生



【CLA一貫校正門】

【記念式典会場にて】

第2 視察場所報告

1 C I E S F L e a d e r s A c a d e m y (C L A) 開校記念式典

宇田法律事務所 宇田幸生

2016年9月28日午前、プノンペン市内にある「Cambodia Japan Cooperation Center」内の「ANGKOR KIZUNA HALL」にて「CIESF Leaders Academy（以下「CLA」と言います）」の開校記念式典は開催されました。



【記念式典会場とホール】

CLAは、公益財団法人CIESFが主体となって設立した教育機関です。保育園から中学校までの間、全て日本語で日本の教育課程によって各科目を教えるカンボジア初の日本式教育一貫校です。同校には、日本でも有名な横峰吉文氏のヨコミネ式幼児教育法と堯舜幼稚舎を経営する河内宏之氏によるカワチ式幼児教育法が取り入れられ、両校の支援を受けた認定校でもあります。既に日本経済新聞でも報道されており、現状は、1回目のカンボジア訪問先でもあったCBTCの所在する建物に同居する形で2016年8月8日に開校し、2歳児、3歳児の保育園としてまずはスタートをきっています。



【会場ホール内の様子】

開校記念式典では、大久保秀夫会長をはじめ、カンボジア王国教育省のHANG CHUON NARON教育大臣、カワチ式幼児教育の河内宏之氏、ヨコミネ式教育の横峰吉文氏、在カンボジア日本国大使館 津川貴久公使、そして元カンボジア王国全権大使で現在はCIESF副理事長でカンボジアオフィス代表の篠原勝弘氏らが列席され、終始和やかなムードで進められました。

冒頭、大久保秀夫会長による挨拶にてCLA開校に至る熱い思いと感謝の辞が述べられ、ついで、CLA開校に至るまでの準備期間のビデオ映像、そして、CLA開校にあたり御縁を頂いたカワチ式教育法の河内宏之氏並びにヨコミネ式教育法の横峰吉文氏から、日本での取組み映像と祝辞が述べられました。



【大久保秀夫会長による冒頭挨拶の様子】

河内氏は、中国古代の堯舜という皇帝の治世を理想とした堯舜幼稚園舎についてお話をされ、堯舜のような素晴らしい人間性、強靱な体力、高い知力を兼ね備えた人材育成への熱い想いを語られました。



【河内宏之氏祝辞】



【堯舜幼稚園舎紹介映像】

横峯氏も、子どもの「やる気」を大事にし、子どもをその気にさせる4つのスイッチ、すなわち、「子どもは競争したがる」「子どもはちょっとだけ難しいことをやりたがる」「子どもは真似したがる」「子どもは認められたがる」という視点を元にしたヨコミネ式教育をもとに、子どもの思考回路を育てる国語教育、地頭をよくする計算教育、運動神経回路を向上させる運動カリキュラムを優先した取組みを実践していきたいと熱い思いを語られました。



【横峰吉文氏祝辞】

次いで、在カンボジア日本国大使館 津川貴久公使より祝辞が述べられました。祝辞では、今年、カンボジア王国が経済成長により低所得国を脱したことが紹介され、カンボジアが今後も力強く持続可能な発展を続けるためにも、あらゆる分野で指導者となる人材を育成することが重要であると述べられました。そして、幼児期から日本語学習が実践されているCLAの児童生徒が将来カンボジアの指導的立場となり、これまで培ってきた日本とカンボジアの友好関係が、将来、益々発展していくことを期待されておりました。



【在カンボジア日本国大使館 津川貴久公使祝辞】

その後、日本から寄せられた音声メッセージと祝電が紹介されました。メッセージは安倍晋三内閣総理大臣、祝電は、自由民主党副総裁高村正彦衆議院議員、元文部科学大臣自由民主党幹事長代行下村博文衆議院議員からのものでした。安倍総理大臣からは、ASEANへの教育支援事業の一端として日本語を主体に行う初の学校としてCLAの開校を実現するという大久保会長の発想と行動力に深く感銘し敬意を表する旨が述べられました。



【安倍総理大臣】

【高村自民党副総裁】

【下村元文部科学大臣】

さらに、今年8月8日からスタートしたCLAの授業の様子や先生方の挨拶の様子がビデオで紹介されるとともに、2歳の園児のクラスである「はす組(19名)」そして3歳の園児のクラスである「ひまわり組(22名)」の元気な子どもたちが会場へ入場。泣きべそをかいたり、人見知りしたりと、様々な表情を見せながらも、日本語での挨拶やCLA園歌を元気よく聴かせて頂きました。CLAの園歌については3日くらい前から一気に上達したとのことでした。これからカンボジア、そしてアジアと世界を担う子どもたちがこうして一同に集っている様子を見ることは本当に感無量でした。



【子どもたち入場】

【壇上で自己紹介する子どもたち】

最後に、カンボジア王国教育大臣よりカンボジアでの教育への期待、日本との文化交流が益々深まることへの期待等の祝辞が述べられ、盛況のうちに開校式典は幕を閉じました。式典終了後には記念撮影、そして夜には、大久保会長を囲んでの歓迎パーティーも開催され、PICC有志一同、新たなる一步に決意を新たにいたしました。



【HANG CHUON NARON カンボジア教育大臣祝辞】



【式典終了後の集合写真撮影】

【式典に参列する愛知支部他有志一同】



【懇親会場にて大久保秀夫会長と】

以 上

2 身体障がい者施設訪問

株式会社クリーン・ダストマン取締役専務 溝口 幹 浩

一貫校開校式典に引き続き、同日午後に身体障がい者施設を訪問しました。施設代表のMEY SAMITHさんは日本で企業トライアルで3年間の身体障がい者で生活し企業で働きました。日本で必死に3年間勉強して日本語をマスターし、帰国後カンボジアにおいて身障がい者の生活支援を国に承認してもらうために地道な活動をしています。日本のJICAの支援を受け活動費を日本からもらいカンボジアでがんばっている35歳の青年です。彼は日本に滞在している3年間で2つの目標を立てました。1つは日本語のマスターと身障者施設の運営資格ともう一つは日本人のお嫁さんをもろう事でした。1つはかないませんが、お嫁さんはカンボジアの人と結婚したので、1つはかなわなかったですと、冗談交じりでしっかりした日本語で話してくれました。



【カンボジアの身障者の方から質問を受けて答えている様子】

彼は日本の身障者の方たちはものすごく恵まれていると話します。ハードの面ではバリアフリーの場所が多く、自動車の運転も免許証もとれるし進んでいると話す。働くところもたくさんあり、自分自身でがんばれば生活可能である。日本人は皆とても親切で、いたわりの心があるので気持ちも穏やかに過ごせる。しかしカンボジアではすべてが日本の逆で、国の補助もない、生活もできない、ましてや免許もとることが出来な状況だ

と話してくれました。しかし 50 名ほどいる施設のみなさんは笑顔で前向きです。
なぜそんなに笑顔で楽しそうなんですかと尋ねると、この施設がないときは、一人ボッチで一日中悶々としていた。しかしこの施設があるおかげで同じ悩みやそれについて話し合う仲間がいることがとても私たちの人生を豊かにしてくれると笑顔で話してくれました。

すごいなと感心しました。ポジティブとはこのことを言うのだな。甘えていられないなと改めて感じました。



【上：集合写真 下：カンボジアの方から写真を撮りたいとご指名頂き、写真と一緒に】

3 CBTCにて

株式会社クリーン・ダストマン 代表取締役 溝口 稔英

2015年8月の1年ぶりのカンボジアプノンペン市のCBTCへの訪問になりました。訪問前に10時からシーセフ日本人学校一貫校の式典に参加しその後CBTCに訪問しました。

シーセフリーダーズアカデミーの看板が大きく掲げられ、門のすぐ脇にカワチ式幼児教育法・ヨコミネ式幼児教育法認定校の文字が新たに掲げられていました。幼児教育も少し前からプレオープンして開校式典での2歳児3歳児の発表もあり、その前にCBTCでは発表の準備をしていたそうです。開校式典の中でもPVが流され本格的にヨコミネ式、カワチ式教育方法が進められてきました。



【式典前のひと家族の様子】



【シーセフリーダーズアカデミーの正面玄関】

1年ぶりに訪れた学校には少し落ち着いた感がありました。教室入ると、出迎えをしてくれた学生40名のキラキラした瞳と純朴な人柄を感じさせる1年前に訪れた時と同じ空気感がありました。まず最初に自己紹介を行いました。日本人経営者の皆さんから学生に向かって自己紹介を行い、そのあとで学生からの質問と経営者の皆さんからの質問が交わされました。日本の良いところなど学生から、どんどん発表が行われました。日本人の良いところは、圧倒的に勤勉、まじめ、仕事は緻密に行っていくや、優しい、思いやりがあると高評価な意見ばかりが出ていました。

将来の夢を日本人経営者から質問をすると、一生懸命勉強して日本の企業で働きたいとか、エンジニアになって国の役に立ちたいというような献身的で前向きな意見も多く出ました。



【熱心に日本人経営者の話を聞くカンボジアの学生生徒の皆さん】

また興味があることなどプライベートな話題になると、嬉しそうに満面の笑みで日本のアニメや漫画を読んでいる女性もいました。また好きな日本語を質問すると誠実や勤勉やお疲れさま、など面白い言葉を言って教室が和んできました。おとぼけキャラの学生の子が「ジャガイモが好き」というと教室は大爆笑に包まれ、その次に料理、食べたいと連想ゲームのような言葉遊びで大盛り上がりしました。

最後に先生方からいきものがかりの「歩いていこう」をお礼に日本語で歌います。「数か月の短い時間で練習したので、最後までうまく歌えないかもしれませんが、聴いて欲しいです」とお話をいただき、学生のみんが精一杯日本人アーティストのいきものがかりの「歩いていこう」を熱唱してくれました。感動しました。一所懸命な姿に、そして真心を感じて感動しました。

素晴らしい時間を共有できました。この学校はいずれ日本の教育法によって素晴らしい学生を生み出し引いては世界を代表するリーダーを輩出できる教育機関になると強く思いました。またその教育法に自分の人生をかけて取り組まれている大久保会長はじめ、スタッフの皆さんの情熱にも目を見張りました。また来年訪問する機会があれば皆さんの成長と幼児教育についても是非見てみたいと思いました。



【宇田委員長が志を贈呈している風景】



【見送りを生徒全員でしてくれました】

以 上

4 eclipse Sky Bar 他

興亜商事株式会社 代表取締役 奥 村 雄 介

開校式典前にカンボジア入りをした有志にて訪問。市内で最も高い屋上のスカイバー、レストランです。完全にオープン形式で、プノンペンタワーの 23 階に位置している。カクテルは普通。値段は 1 杯 5 ドル程度で標準的です。



【増田副委員長とともに】

【レストランメニュー一例】

ナガ ワールド ホテル & エンターテイメント コンプレックス【カジノ・免税店】。一貫校開校式典後に訪問。プノンペンで唯一のカジノ「ナガワールド」。ホテルと併設しています。ホテルは 5 つ星。1995 年から 70 年間のカジノ独占営業権（プノンペン及びその周辺）を得ています。免税店は 2016 年オープン。現在 20 店舗ぐらい。全部揃うと 200 店舗ぐらいです。※カジノは撮影禁止のため写真はありません。



【免税店の様子】

以 上

5 アンコール・ワット 外

株式会社トランス・マリーン 取締役 高橋 亜貴人

『世界遺産アンコール・ワット』

式典の翌日、プノンペンからシェムリアップに移動し、世界遺産アンコール・ワットを観光しました。アンコール・ワットは、カンボジアにあるアンコール遺跡の一つで、遺跡群を代表する寺院建築です。サンスクリット語でアンコールは王都、クメール語でワットは寺院を意味しており、名前に恥じない立派な寺院となっています。



【世界遺産アンコール・ワット】

アンコール・ワットは、2011、2012、2013年と3年連続で日本人に人気の観光地ランキングで堂々の1位。しかし、日本人だけではなく、アンコール・ワットを訪れる観光客の約50%以上がヨーロッパ人と言われています。観光大臣は2020年までに年間400万人の観光客をアンコール・ワットに誘致することを目指しています。

アンコール・ワットの歴史は12世紀前半のクメール王国のスールヤヴァルマン2世が建造し、1130年から30年余りの年月をかけて造られました。

ヒンズー教寺院であると同時に、王の霊廟として計画されたものと言われています。5つの堂塔を第1回廊・第2回廊と2つの回廊が取り囲んでおり、その回廊のレリーフもアンコール・ワットの見どころの一つです。



【第一回路】

【美しいレリーフ】

内側の壁には一周ずっとレリーフ（浮き彫り細工）が彫られています。このレリーフの素晴らしさはアンコール・ワットの魅力の一つになっています。



日の入りの早朝 6 時にアンコール・ワットの再度訪問。
が、・・・しかしながら天気が曇りで朝日をバックに映るアンコール・ワットは撮れず。



もし、朝日が昇っていればこんな写真に→

『タ・プローム』



タ・プロームは大きなガジュマルの樹の根がまるで遺跡を飲み込むかのように覆う様子からは、荒らぶる大自然の脅威が伝わってきます。12世紀頃にジャヤヴァルマン7世が仏教寺院として建立。19世紀後半に発見されるまでは、多くの樹木に覆われていたため、その現状に近い状態で現在も残されています。遺跡を侵食する巨大なガジュマルの樹の根が、不気味ながらも力強く、生命力の強さを感じることができるパワースポット。

【遺跡を侵食するガジュマルの樹】



シェムリアップは、まだまだアンコール・トムやバイヨン、トンレイサップ湖など、魅力的な観光スポットが多々あります。3~4日かけて観光できる魅力いっぱいのところでした。

以上